様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ９ 月 ２９ 日現在

機関番号：２４２０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2011～2014
課題番号：２３５２０９９２

研究課題名（和文）広域神社祭祀とコモンズに関する環境民俗学的研究

研究課題名（英文）THe environmental folkloric research of widely believed shrine and commons

研究代表者
市川　秀之（Ichikawa, Hideyuki）

滋賀県立大学・人間文化学部・教授

研究者番号：８０４３３２４１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,900,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では滋賀県・奈良県や大阪府などにおいて複数村落によって祭祀される神社と自然資源の共有関係について検証することを目的とした。村落関係表を作成し、そのうち滋賀県の事例の一部については「湖東地域における複数村落による神社祭祀」（『人間文化』３８）において報告した。また地域的分析として滋賀県蒲生郡竜王町苗村神社の三十三年大祭の調査を行い、祭祀の中心的役割を担う9つの村落の水利関係、森の利用などについて近世文書を用いて明らかにした。また奈良県畝傍山周辺村落では、明治以降の山の国有地化や樫原神宮の創設によって、水利や山林の利用、畝傍山口神社の祭祀が大きく変化したことを明らかにしている。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is an impection of relation between widely believed shrine and co-ounership of natural resources in Shiga prefecture and Osaka,Nara and so.After making a list of village relations, I made a report "Shrine belief by plural villages in east Shiga". And researching the festival of Namura Shrine in Ryuou town that was held after an interval of 32years, I have clarfied relations of water and wood use by central nine villages by using old documents. And I clarfied that water and wood use,religious styles of Unebiyamaguchi Shrine have changed on a large scale after Mt.Unebi was converted into state-owner land and Kashihara Shrine was built.

研究分野：日本民俗学

キーワード：コモンズ　共有林　郷　水利　入会　神社祭祀

１．研究開始当初の背景

近畿地方の村落では、複数の村落によって祭祀される神社の信仰圏と、山林利用圏や農業水利権、漁業権などを持つ村落の範囲が一致することがよく見られる。近年、自然資源の共有や共同管理・利用のシステムあるいは資源そのものをコモンズと総称し、それが自然資源保護に果たしてきた役割を評価するコモンズ研究が、民俗学・社会学・人類学・経済学などの分野で注目されてきている。本研究は、複数村落によるコモンズと神社祭祀との重複性に着目し、その関係性を明らかにすることを目的とする。

申請者は民衆の生活文化（＝民俗）の歴史的意味を考察する歴史民俗学の立場からの研究をこれまで継続してきた。民俗学では年中行事や人生儀礼など個別の領域研究の進展はすでに限界を迎え、いかに領域を越境した新たな視座を導入するのかが大きな課題である。本研究は民俗学がこれまで取り組んできた伝統的な信仰・行事体系に関する研究と、近年社会学や人類学の影響を受けて進展が著しい環境民俗学、ことにコモンズ論とを融合させ、新たな視座を獲得することを目的にしている。直接的な対象とするのは近畿地方における広域神社祭祀である。広域神社祭祀とは単独村落が祭祀する氏神ではなく、複数村落による神社の祭祀をいう。これまでの神社祭祀研究は、祭祀組織である宮座が中心であったが、これに環境民俗学的視野を導入することによって、自然環境と人間の生活、自然環境を媒介とした人と人との結びつき、すなわち生業・信仰・社会の相互関連について既存の学問領域を越境した新たな視点を導入することが可能となる。

申請者はこれまで神社祭祀にかかわる研究として、「竜田と吉野」（近藤直也編『座　それぞれの民俗学的視点』（創元社）1991 年）・「天理市乙木の祭祀と村落空間」（『近畿民俗』109 号、1986 年）・「祭・水・村　」（『近畿民俗』117 号、1988 年）・「村落祭祀における広場と御旅所」（『近畿民俗』141 号、1995 年）・「『宮座』誕生―滋賀県下における肥後和男の宮座調査と宮座概念の形成」（『近江地方史研究』第 39 号、2008 年）などを発表し、近畿地方を中心に村落社会・空間と神社祭祀の関係性について考察してきた。これらの論文は単著『広場と村落空間の民俗学』（岩田書院　2001 年）に集成し、同書のなかでは神社祭祀と村落社会の関係について整理をおこなっている。また水を中心とした資源利用については、「滋賀県湖西地域の伝統的上水道」（『近畿民具学会年報』25 号、2002 年）や「南河内における溜池の類型と築造年代」（『大阪府立狭山池博物館研究報告』１、2004 年）を発表し、単著『歴史のなかの狭山池』（清文堂　2009 年）において狭山池を中心に水利用の通史的展開を明らかにしてきた。また科学研究費基盤研究 C「集落内水路に関する環境民俗学的研究」（研究代表者市川秀之・平成 19～22 年度）を受け、滋賀県を中心としながらも全国的視野で

水資源と生活の関連について考察を深め、さらには科学研究費基盤研究 B「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」（研究代表者水野章二・平成 18〜21 年）においても琵琶湖の逆水灌漑などについて研究を進めてきた。本研究は申請者がこれまで進めてきた、神社祭祀研究と自然資源利用研究をより高次で融合させ、新たな歴史民俗学の構築に資することを大きな目的としている。

これまでの民俗学における神社祭祀研究には、肥後和男『宮座の研究』（弘文堂出版、1941 年）・萩原龍夫『中世祭祀組織の研究』（吉川弘文館、1962 年）をはじめとする膨大な蓄積があるが、神社祭祀と自然資源利用の関連については、大越勝秋『宮座』（大明堂、1974 年）・合田博子『宮座と当屋の環境人類学』（風響社、2010 年）などが一部で触れているだけである。これまでの神社祭祀・宮座研究の中心であった滋賀県下においても、政岡伸洋「近江湖東における神社祭祀の地域的展開」（『鷹陵史学』18 号、1992 年）などがある程度である。またこれらの先行研究において神社祭祀との関係が検討されてきたのは農業水利との関連だけであり、海や山の資源利用については等閑視されてきている。本研究では近年のコモンズ論などの深まりを見据え、農業水利だけではなく、海や湖、山林、砂浜など幅広い自然資源と神社祭祀との関連を明らかにしていきたい。

２．研究の目的

近畿地方の村落では、複数の村落によって祭祀される神社の信仰圏と、山林の利用圏や農業水利権、漁業権などを共有する村落の範囲が重なりあうことがよく見られる。本研究は、このような神社祭祀圏と自然資源利用圏の重複に着目し、歴史民俗学と環境民俗学の複眼的視野から、事例の一覧表の作成や、フィールドワークによる事例分析、歴史的考察などによってその関係性、すなわち自然資源の利用と人々の信仰や社会的結合がいかに関連してきたのかを明らかにし、今後の自然資源利用システムの構築や地域作りに資することを目的とする。

３．研究の方法

研究は研究代表者の市川が一人で担当し、必要に応じてアルバイトなどを雇用する。全国的な神社祭祀・自然資源利用にかかる村落連合の一覧表を自治体史や民俗誌を検索することによって作成し、それによって個別地区におけるフィールドワーク事例の相対化を図るとともに、より調査に適した地点の抽出をおこなう。またにはフィールドワークをおこなった地域を中心に、神社祭祀・自然資源利用にかかわる村落関係について古文書などの調査を実施し、神社祭祀圏・自然資源利用圏の歴史的展開について明らかにする。

４．研究成果

文献調査によって滋賀県・大阪府・奈良県・福井県若狭地方において、村落連合の事例表を作成し、地域ごとの概観をおこなうとともに、地域調査に適切なフィールドの選定をおこなった。広域的な研究の結果、神社祭祀をする村落と、山林・農業水利・内湖などを共同利用する村落が完全に重複する場合と、必ずしもそうではないケースが存在することが明らかになった。大阪府南部のいわゆる泉南地域や奈良盆地東縁部では前者の例がおおく、また滋賀県湖東地域では後者の例が多かった。

このような村落連合の形成理由について、古代の郷・中世の荘園支配・中世後期の惣村・中世後期の土豪の連合体・近世の領主支配・近代の行政・神社祭祀・水利慣行・山林の共同利用・その他の自然資源、の１０の指標を用いて、滋賀県湖東地域において分析をおこなった結果、東近江市伊庭では中世の荘園の範囲が神社祭祀などの状況に大きな影響を与えていたことが明らかになったが、彦根市荒神山周辺では、稲村神社を共同祭祀する村落の形成要因は中世後期の段階では確認することができず、その形成は中世前期あるいは古代にまでさかのぼる可能性もある。

また 2014 年に三十三年に一度の大祭が行われた蒲生郡竜王町苗村神社ではその祭祀の中核となる九つの村落は、水利や山林利用の面で歴史的に争論を繰り返し展開してきた関係性にあり、神社祭祀によってその紐帯が保たれてきている。また奈良県畝傍山の周辺村落や、畝傍山や深田池を共同利用し、畝傍山口神社を共同祭祀してきたが、明治以後の畝傍山国有地化と聖域化および橿原神宮の創建などによって、国家的に資源の共同利用が妨げられ、また山頂に鎮座した神社も昭和前期に移転するなど、村落連合の関係性も政治の影響を大きくうけていることが明らかになった。全体的には村落連合の形成時期は中世にさかのぼるものが多く、近世以降に形成されたものは少ないが、ただその具体的な関係性は近世以降、ことに近代に入って大きく変化している。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

（単著）「琵琶湖の民俗　集落内の水路」『季刊民族学』145　（千里文化財団）2013 年 7 月 25 日　ｐ36～ｐ41

・（単著）「湖東地方における複数村落による神社祭祀」『人間文化』38 号（滋賀県立大学人間文化学部）　2015 年 3 月　p28～p43

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計１件）

大阪経済法科大学河内学研究会編『「河内学」の世界』清文堂出版　2015 年 5 月 15 日　（「近世河内の水環境―大和川を中心にー」　p141～p157

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

市川秀之（ICHIKAWA,Hideyuki）

滋賀県立大学・人間文化学部・教授

研究者番号：80433241

,

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：